様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月　 ９ 日現在

機関番号：３４６０２
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５２０８４３

研究課題名（和文）１９世紀中葉の欧米列強によるアジア戦略とそのネットワーク形成過程の解明

研究課題名（英文）A study on the Asia policies of Western Powers and how they established their regional networks in the mid-nineteenth century

研究代表者
小暮　実徳（Kogure, Minori）

天理大学・文学部・准教授

研究者番号：９０５３７４１６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,100,000円

研究成果の概要（和文）：『タウンゼント・ハリス個人文書』の分析・検討、その史料の翻刻・校正・出版のため、オランダ、アメリカにおける長期現地調査・研究を行った。この作業により、同史料の史料集作成に関する作業、またその分析を、十分な度合いで達成した。この成果の一部は、著書や研究発表の中で公表した。近いうちに、この史料集出版を現実化させたい。更に本期間、多くの研究者との交流ができたことは、自らの研究上、また国際化の視点においても、非常に意義深かった。

研究成果の概要（英文）：During this period research was conducted in the Netherlands and the US with the aim of finding, collecting and discussing ‘Townsend Harris Papers and Correspondence’ and related unpublished documents. The documents found have been fully transcribed into electronic text documents and were subsequently edited for future publishing. The results have already been partly published in a book and were presented at several meetings. Moreover during his period new contacts were established with many international researchers. The project was thus of great significance also with regard to international academic exchange.

研究分野：19世紀中葉の欧米列挙のアジア進出

キーワード：タウンゼント・ハリス　ニューヨーク・シティ・カレッジ　日本開国　アメリカ国務省　ジョン・ボーリング　日米修好通商条約　ハリス個人文書　帝国主義

１．研究開始当初の背景

申請者の中心的研究は、19 世紀中葉のオランダ対日外交政策である。その問題の解明には、主に政府公文書一次史料の調査から、その本国政府の外交方針を実証的に分析・検討する手法を取っている。このため多くの長期海外現地調査を行った。その成果は、2008 年オランダ国ライデン大学博士請求論文『国家的名声と実益－1850-1862 年までのオランダ対日外交政策』(Maastricht, 2008)として、英語で纏められた。その後 2009-2012 年間科学研究費補助金（若手 A）を受け、更に自らの研究を深化させる目的で、アメリカ合衆国ワシントン DC に赴き、主に日本開国に大きな影響を与えたペリー司令官日本遠征に関する現地史料調査を行った。その際、このペリー司令官や初代駐日アメリカ総領事・弁理公使タウンゼント・ハリスに大きな関係を持つニューヨークにも数日滞在し、このハリスが創設者でもある同地のシティカレッジにも訪問した。その際ハリス遺品等のコレクションや、今回注目する『タウンゼント・ハリス個人文書・書簡集』（以下『ハリス個人文書』）を見ることが出来た。

実際この『ハリス個人文書』は、既にマイクロフィルム化され、日本では横浜開港資料館が所有していた。しかし同文書は、ほとんど検討がなされていなかった。それは『ハリス個人文書』に含まれ日本語訳では「ハリスの手紙」（Letters and Papers of Townsend Harris）とある史料の「Letters」が、日本語でそのまま「手紙」と訳されたことにより、同文書が家族や知人等とのプライベートな性格のものと考えられていたことによろう。しかし現地調査によるオリジナルの直接の検討から、この史料が、当時アジアに訪問・滞在した同国人や各国要人との往復書簡であることが判明した。この史料は十分な量であり、同時期の欧米列強のアジア戦略の実態を詳らかにできる極めて重要な文書と理解された。そこでこの文書の検討は、極めて重要と考え、この調査・分析を進めることにしたのである。

２．研究の目的

本研究の目的は、アメリカ合衆国ニューヨーク・シティカレッジ（The City College of the City University of New York）が保有する未公開史料『タウンゼント・ハリス個人文書・書簡集』（Townsend Harris Papers Correspondence）の分析・検討により、19 世紀中葉から本格化する欧米列強のアジア戦略の実相に迫ることである。それにより同地域における当時の欧米列強による、その拠点確立・運営状況、そこから同地欧米人のネットワーク・その形成過程の全体像を明らかにする。このような研究の成果により、広くは 19 世紀の歴史的テーマ「帝国主義」「植民地史」研究に、新視角から歴史実証的貢献を行い、その関連研究の深化に寄与することを目的とした。

更に具体的に述べれば、現在までのハリスに関する研究業績は、主に彼の伝記・滞在記が多い。また彼の日本における、主に条約交渉については、近代日本史を扱う多くの研究書により十分検討されてきた。ここからハリスの人物像・生涯、また日本における活動は、十分明らかにされたと言える。しかしながら、特にハリスが、主に中国問題を念頭に置いたアメリカ国務省のアジア政策の一環から、現地の日本全権として、そのアジア地域に滞在する同郷人・欧米人との情報交換により、どのような対日、ひいてはその対アジア政策を立案・展開していったのか。すなわち当時積極化した西欧列強のアジア戦略を背景にして、ハリスが、この状況を視野に入れ、現地の地域的状況をも分析し、どのようにアメリカの利害を同地域で確立しようとしたのか。このようなアジア全体から見た、また海外一次史料に基づいた、ハリスの役割・位置に関する研究は希少であった。そこで既存の研究状況・成果と比べ、本研究が、当時のアジアにおける欧米列強の国際関係を、新しい視点から、巨視的に、また実証的に明らかにできる点で、新規的・独創的と考えられた。このような点から、具体的には、この「ハリスの手紙」を分析・検討し、さらに翻刻・出版をする計画したのである。

３．研究の方法

本研究の目的達成には、まずこの未出版一次史料『ハリス個人文書』に含まれる「ハリスの手紙」を、徹底的に分析・検討することであった。その作業により、新視角から当時の歴史を再構成し、その全体像に迫ることが出来ると思われた。またこの中で、同史料を翻刻し史料集として出版し、知識共有を図ることが望まれた。このためには、当該諸国における長期研究滞在、さらには現地外国人研究者の協力が必要不可欠であった。

本研究の中心的史料である「ハリスの手紙」は、ニューヨーク・シティカレッジ図書館史料部が保管している。この史料のマイクロフィルム版は、既に収集済みであったが、このオリジナルは、一枚一枚ビニールのファイルに収められており、そこでデジタルカメラによる撮影は、光の反射の影響があり出来なかった。翻字作業の最終確認の際には、オリジナルとの比較が最も望ましい。そこで現地研究滞在が必要であった。また駐日初代アメリカ総領事・弁理公使であったハリスの関連史料は、アメリカ合衆国国立公文書館が保有する国務省ファイルにも含まれる。更に当時ハリスとアジアで頻繁に書簡交換した人物、例えば宣教医マクゴワン（D.J.McGowan）等の史料も、同公文書館やアメリカ合衆国議会図書館が保有している。そこで同史料を多角的に考察するためには、ワシントン DC への研究滞在も必要となった。

４．研究成果

本期間､アメリカ合衆国ニューヨーク２回、ワシントン DC に１回、オランダ４回と、広範囲な調査を行うことが出来た。これにより現地で、十分な便宜を受けることが出来、本研究計画を望ましく促進させることが出来た。

初年度は、本研究計画に密接に関連する幕末期日本関係オランダ語史料集出版計画を終了させた。この史料集は約 900 ページにも及んだが、ライデン大学ブイケルス教授の指導を受け、最終原稿を完成させた。現在同教授と、出版につき検討している。

次年度から、本格的に本研究計画『タウンゼント・ハリス個人文書』に取り組んだ。当初はこの文書が含む「ハリスの手紙」のみに集中するはずであったが、この全ての文書が極めて重要で、興味深く思われ、そこでこの全体の文書の翻刻に取り組むことになった。このためワシントン DC の議会図書館と国立文書館、ニューヨーク・シティカレッジを訪問し、更なる関連文書も捜索した。本史料以上に重要な文書は発見できなかったが、それだけ同史料の重要性を理解できた。またこの間、同史料を用いて作成された同大学文学部長故マリオ・コセンザ著「日本の友」と題される未出版著作に関しての検討を行った。これは同教授の、邦訳『ハリス日本滞在記』の続編であり、非常に興味を掻き立てる作品であった。そこでこの作品の公表も視野に、タイプライター原稿を、全てデジタル化した。これは 500 ページ以上であり、極めてタフな作業であった。

最終年度には、本史料全体の翻字テキストを完成させるためオランダに渡航し、ブイケルス教授にテキストを提出し校閲・校訂を受けた。総計約 1800 頁ともなったが、同教授のお蔭により、ほぼ全ての校訂済テキストを受け取ることが出来た。本期間での出版できなかったが、近い将来一番良い公表の仕方を決定する。この作業と並んで、学術図書出版助成のプロジェクトも進めた。これは『幕末期のオランダ対日外交政策‐「国家的名声と実益」への挑戦』（彩流社）として上梓された。この中でも、本研究の成果を示すことが出来た。

本研究期間、研究協力者、また数多くの海外の研究者にお会いでき、相互の研究に関する意見交換や、今後可能な共同研究プロジェクト等に関して話し合いを持てたことは、非常に重要であり、大きな刺激を受けた。このような学際的国際交流を続けることができたことは、自らの研究動機を強く維持することになり、大変貴重であった。記して感謝致したい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　４件）

①小暮実徳、幕末期オランダ対日外交政策における蘭領東インドの役割‐インドネシア国立文書館（ANRI）現地調査に基づく蘭領東インド総務局文書の検討から、天理大学学報、査読有、第 237 編、2014、pp.35-50

②小暮実徳、オランダ的外交政策‐19 世紀中葉アメリカ合衆国ペリー司令官による日本遠征に対して、天理大学学報、査読有、第 235 編、2014 、pp.29-50

③小暮実徳、ペリー日本遠征の再検討とその真意‐アメリカ合衆国国立公文書館国務省・海軍省ファイルに含まれる未公刊関係史料の検討から、明治大学創立 130 周年記念事業教学記念事業分科会研究者シンポジウム人文科学系報告書、査読有、2012 、pp.3-16

④Minori Kogure、The Motives for Perry's Expedition to Japan Re-examined - Based on a study in the archives of the Department of the Navy and the Department of State in the National Archives of the United States’、130th Anniversary of the Founding of Meiji University Commemoration Project、2012、pp.17-42(上述の英訳)

〔学会発表〕（計　７件）

①小暮実徳、オランダ史概観ならびにペリー来航と幕末外交、ライデン大学東京事務所、秋の特別講座 2014、ライデン大学東京事務所、2014

②小暮実徳、オランダ的外交政策－19 世紀中葉アメリカ合衆国ペリー司令官による日本遠征に対して、史文会、天理大学、2014

③小暮実徳、ペリー司令官日本遠征の真意-アメリカ合衆国国立公文書館所有原文書による新解釈、津山洋学資料館、第 69 回 文化講演会、津山洋学資料館、2014

④小暮実徳、幕末期における日本とオランダ、奈良歴史研究会、奈良女子大学、2013

⑤小暮実徳、19 世紀中葉の欧米列強によるアジア戦略とそのネットワーク形成過程の解明、日本西洋史学会(部会別自由論題報告)、京都大学、2013

⑥Minori Kogure、Dutch Diplomacy towards Japan in the mid-nineteenth century」ライデン大学東京支部（ライデン大学東京支部開設記念シンポジウム）、国際文化会館、2012

⑦小暮実徳、出島（Dejima）‐世界を繋いだ小さな窓、洋学史研究会 ホテル・サンルート 2012

〔図書〕（計　１件）

小暮実徳、彩流社、幕末期のオランダ対日外交政策－「国家的名声と実益」への挑戦、2015、368

〔産業財産権〕

○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等：特になし

６．研究組織
(1)研究代表者
小暮実徳（KOGURE, Minori）
天理大学文学部歴史文化学科准教授
研究者番号：90537416

(2)研究分担者　※なし

(3)連携研究者　※なし